

第4回 西浦地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：平成30年1月21日（日）

午後1時30分～午後4時30分

会場：西浦公民館 講堂

主催：蒲郡市

プログラム

開会	1：30
趣旨と経緯について ・ワークショップの趣旨・目的 ・前回ワークショップでの議事概要	1：35
検討の進め方とスケジュールについて	1：50
オープンハウス結果概要	1：55
西浦地区の地区利用型施設再配置プラン案について ・地区利用型施設再配置プラン案の比較・評価	2：00
(休憩)	2：20
グループ討議 ・評価の内容についての確認と修正提案	2：30
(休憩)	4：00
発表	4：10
事務連絡	4：25
閉会	4：30

<目次>

- ・ワークショップの趣旨・目的 1
- ・第3回ワークショップの結果概要（案） 2
- ・進め方とスケジュール 10
- ・第3回ワークショップふりかえりシートご意見 11
- ・事実関係についてのご質問への回答 14
- ・評価の視点についてのご意見への回答 16
- ・再配置プラン案の評価検証 17
- ・西浦地区地区利用型施設再配置プラン案 20
- ・本日の検討内容 22
- ・（別冊）西浦地区オープンハウス結果概要
- ・（別冊）項目ごとの評価の解説

次回ワークショップのご案内

「第5回西浦地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようよろしくお願いいたします。

1 日時

平成30年2月25日（日）

午後1時30分～午後4時30分（開場：午後1時15分）

2 会場

にしうら児童館 プレイルーム

3 お願い

- 当日利用する資料を郵送で事前配布する場合があります。その際は、当日、資料をご持参下さい。
- 欠席される場合は、事務局までご連絡願います。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部財務課 担 当：小野・大森・星野

電 話：0533-66-1158

ファクス：0533-66-1183

E-m a i l：zaimu@city.gamagori.lg.jp

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた西浦地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

第3回ワークショップの結果概要（案）

1 再配置プランについてきたいできることや不安など

■ A案

- 期待できること
 - 異年齢の子どもたち同士や子どもと大人や高齢者が交流する機会が増え、にぎわいづくりや子どもの成長につながることを期待できる。
 - 1ヶ所に機能が集中することで、小学校と中学校などの異年齢の子どもと一緒に通学したり、利用者も便利になりそうだ。
 - 1ヶ所に機能が集中することで、職員など経費節減ができそうだ。
 - 1ヶ所に施設が集約されることで、地区のランドマークとなり、情報が伝わりやすく一体感が生まれそうだ。
- 不安なこと
 - 現在の小学校敷地に1ヶ所に集約することで、それぞれの機能の規模が十分確保できなかったり、混雑して使いづらくなってしまわないか心配だ。以前小学校の運動場が不足して、保育園を現在の位置に移転させたのに、また戻ってくることは、これまでの経緯と逆行するのではないか。
 - 1つの建物に多様な機能を入れると、動線の確保や安全への配慮など管理運営面で混乱が起きないか心配だ。
 - 1ヶ所に機能をまとめると、建設費や管理運営費などがかえってコスト高になりそうだ。
 - 機能が集まり多様な人たちが利用することになると、中学生の学習環境など教育の環境を保つことができるか心配だ。
 - 中学校敷地を、津波時の避難場所として活用できないことが心配だ。
 - 1ヶ所に集中することで、アクセスしやすい人としにくい人の格差が広

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

がるのではないか。

- その他
 - 特に若い世代が集まりやすくなるようなハード面でのレクリエーション機能の充実を図ってほしい。

■ B案

- 期待できること
 - 公民館と保育園が複合化することで、園児と高齢者、園児の保護者などの交流や公民館の利用促進が期待できる。
 - 中学校が津波時の避難所として活用できる点が良い。
 - 児童館は築年数が比較的浅いので、引き続き有効活用できる点が良い。
 - 中学校は高台にあり、景観スポットでもあるので、そうした環境を生かしたい。
- 不安なこと
 - 高台に小学校が移転することで、低学年の小学生は通学が大変になりそう。また、人家や街灯も少なく安全上懸念がある。
 - 最初のうちは中学校敷地まで小学生が通うのは大変そうだが、慣れれば負担も少なく、子どもたちの鍛錬にもつながるのではないか。
 - 通学の負担がどれぐらいになるのか、児童の居住地などから判断したい。
 - 小学校敷地と中学校敷地の2ヶ所を使い続けるため、将来負担の縮減にはあまりつながらないのではないか。
 - 小学校と中学校を集約化すると、グラウンドが狭いため、部活動に影響が出そう。
- その他
 - 児童クラブが小学校のそばにあれば、児童館の位置は特に問わない。

■ C案

- 期待できること
 - 1ヶ所に集約されることで、多世代の交流や利用者の利便性が期待できる。
 - 中学校の生徒数が増えることで、学習や部活動、生活面での活発化が期待できる。
 - もっとも将来負担の縮減が期待できる。
- 不安なこと
 - 形原中学校まで遠いため、スクールバスや路線バスの変更など通学手段を確保する必要があるようだ。また自転車で通学するにも、道路の整備や安全上の懸念もある。
 - スクールバスはコストもかかる。中学生に多少の不便は仕方ないだろう。
 - 西浦中学校がなくなると、将来西浦地区に中学生が増えないことを認めてしまうことになってしまい、さらにファミリー世帯が他地域に移ってしまうことが懸念される。
 - 中学校は防災拠点として整備されているので、なくす必要はない。
 - 西浦地区と形原地区は地域性が異なるので、1つの中学校に統合すると子ども同士などの対立が懸念される。
- その他
 - 特に若者世代が集まりやすくなるようなハード面でのレクリエーション機能の充実を図ってほしい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ D案

- 期待できること
 - 中学校と小学校の2ヶ所が防災拠点として活用できる点が良い。
 - 中学生と地域の人が交流できることで、互いが刺激を受けることができそうだ。
- 不安なこと
 - 高台に公民館が移転されると、高齢者はアクセスしづらく、利用者の負担増や利用者減が懸念される。
 - 中学校と公民館が複合化してもあまり交流には期待できない。
 - 将来負担がもっとも大きくなりそうだ。
 - 小学校と中学校を一貫化することで、教育の質の担保や将来負担の縮減を目指したい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 各案共通の期待したいこと、心配なこと（付帯事項）

- 人が集まる空間
 - 道の駅のような地域の観光拠点やマーケット、コミュニティカフェなどの地域拠点となる機能ができる空間ができるとうい。
- 空いた土地や建物の利活用
 - 児童館の建物は築年数が浅いので、コミュニティスペースなどとして活用したい。
 - 中学校敷地は、福祉施設や企業・教育研修施設などを誘致してはどうか。
- 消防署・派出所
 - 観光地にも近いので、複合施設の整備にあわせて、消防署や派出所など防犯機能の強化が必要だ。
- 災害時対応
 - 災害時に仮設住宅を建てることを想定しているプランになっているのか疑問だ。
 - 避難所の数が少ないので、民間の建物との協定も視野に避難所を点在して確保してほしい。
- 人口増の取組
 - 公共施設だけでなく、団地造成・市営住宅の建設など人口増加に向けた取組もすべきだ。
- 地区利用型施設の縮減について
 - 西浦地区は、これ以上公共施設を減らす必要はない。

2

評価の視点について

② 人口減少・少子高齢化社会への対応

- 若者の利活用のしやすさを評価項目に加えてほしい。

③ 教育環境の適正化

- 対象となる学校や施設の利用実態をもとに評価したい。

④ 災害時の対応

- ミサイル対策を勘案し、防空壕の設置について評価項目を加えたい。

⑦ 運営の改善

- 多様な人が集まることによる防犯上のリスクを評価項目に加えてほしい。

● 視点の追加

- 地域の雇用促進や来町者増加などの経済的な効果も評価の視点に加えてほしい。

● 全般について

- 評価項目は妥当である。
- 機能の複合化の組み合わせ方によって、得られる交流促進や教育環境の向上の効果の違いを評価に反映してほしい。
- 地区の活性化や人口減少・少子高齢化社会への対応がもたらす効果を評価の中で重視したい。

3 その他（質問や進め方について）

- ワークショップの進め方
 - 第1回、第2回で議論した公共施設以外の「企業誘致」「名鉄の廃線」「地域のお祭り行事」等について、もっと掘り下げた議論をしたかった。
 - ワークショップの2回目から3回目への展開が早すぎるのではないか。西浦のまちの将来について議論を深め、具体像を描くなどしたうえで、公共施設について話をしたかった。5回のワークショップだけで足りないのなら回数を増やしてもよいと思う。
 - 複合施設の整備によって生じる空いた土地や施設の再活用もあわせて検討したい。
 - これまで総代以外の人でまちを考える機会がなかったので、今回のワークショップは良い機会になっている。形式的に意見を聞くだけの場にはしたくない。
- 情報提供
 - 違う地区同士の学校が統合した場合や地域交流拠点と教育空間が複合した場合、他の先行事例での運営上のメリット・デメリットが分かれば知りたい。
- 当事者の意見や利用実態
 - 再配置プランについて、子どもたちの意見も聞きたい。
 - 児童館の利用実態を知りたい。
 - 子どもの居住分布が分かれば、通学路の面での学校立地の検討が具体的に分析できる。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- オープンハウス
 - ・ 銀行などのアイデアも出ていたのに反映されていない。もっといろいろな場所で開催し、いろいろな立場の人に意見を聞き、公共施設の再配置に関心を持ってほしい。

- 今後のスケジュール
 - ・ 今回塩津地区と西浦地区でワークショップがスタートしたということは、一番最初に再配置に着手することなのか確認したい。

進め方とスケジュール

1

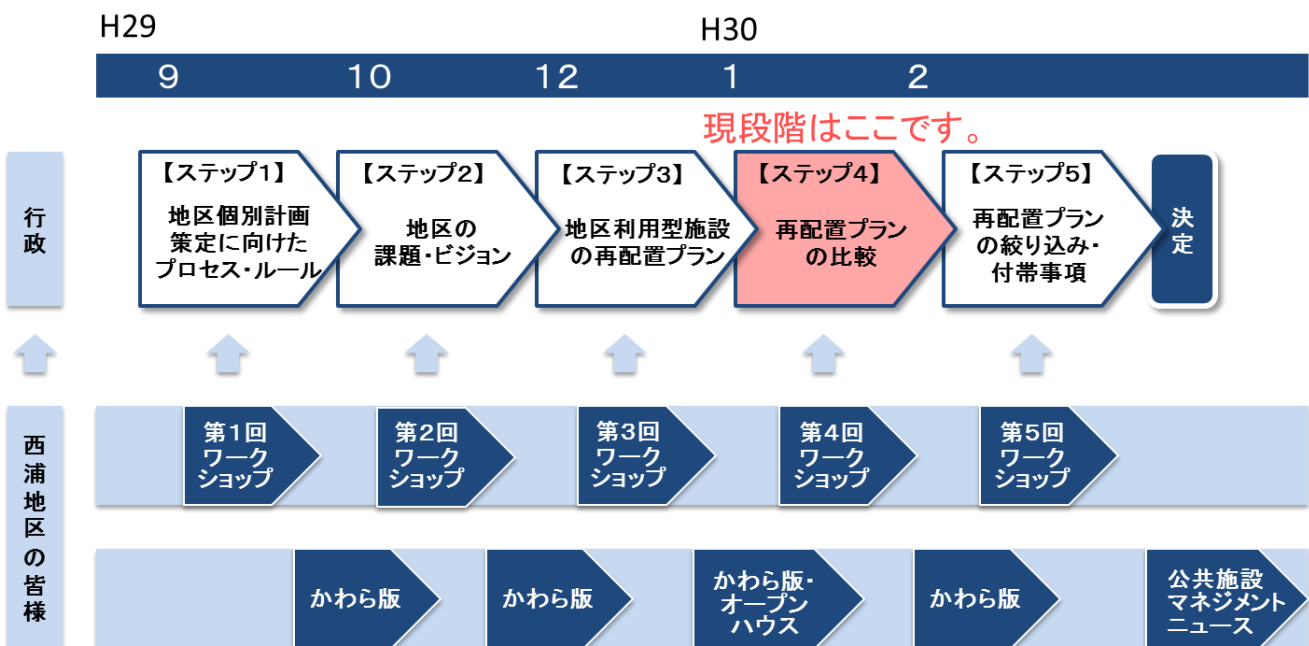
検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランの評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき比較・評価します。
- ステップ5** 再配置プランの絞り込みをします。

2

スケジュール（予定）



第3回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- みなさんの色々な意見、考えが聞けて良かったです。
- 具体的なプラン案が出されて、議論しやすくなった。
- コスト面は、人件費を抜きには考えにくいので、具体性に欠けると思った。
- 「おおよそ10年後」ということであったが、「10年後」も想像するのは容易ではない気がした。
- A~Dプランと、しばって議論できて良かった。
- ファシリテータふじもりさんと楽しくすごせた。
- ファシリテータのもと全員が意見を出し合ったのが良かった。
- 色々な意見を聞けて良かった。(自分が考えていなかった意見等)
- 色々詳しい話が聞けて良かった。
- いろいろな案がはっきりし、話し合いの結論がみえてきました。
- 初めてでしたが、話しやすい空気でした。
- 今回の議論でもっと理解したいなと思いました。
- A、B、C、D案にまとめられていたので、話しやすくよかった。

2 内容について言い足りなかったこと

- 話しやすい雰囲気ですべて言えました。
- グループ討議の説明をもう少し短くしては？
- 第2回から第3回目に行く時に、→今までの話題が割愛されたことが多い。企業誘致の件、名鉄の話題、西浦地区の発展事業（花火等）。当初の7項目議題からそれていないか。公共施設だけのことに固執しすぎ！
- 市は、西浦の町の人口が減少ありきと考えているのであって、増加される手だてはしない、できないと思われる。
- 活性化とは人の行来を言うのであって（増加したり減少したり）、人数がそのまま、老若男女で組み合わせにより活性化とは違うのでは。
- オープンハウスを公民館にも設置してもらいたい。理由・人が一番西浦で集まる場所
- 話し合いの時間がもっとほしい。文書を事前に読んできたので、市の方の説明は短くて私は良い。
- 名鉄電車の事や、観光の事、もう少し議題にするとよい。使っていない人も、名鉄がある事で心情的に楽しい。駅がさみしくなって、さみしい。
- ①適正化
 - ◎所有者不明地に利用権
所有者不明の空き地に5年以上の利用権を設定、公園農産物の直売所に公益性のある事業目的でイベント広場も利用する。又建替えの際仮設保育園など想定しては如何でしょうか。
- ②効率化
 - ◎高齢者住まい空き家活用
賃貸住宅への入居を断られやすい単身高齢者や低所得者向けに空き部屋を利用、所有者に物件を登録、65才以上の単身世帯は賃貸を住宅入居と

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

希望しても孤独死や家賃滞納のリスクが多いので入居を断られる。自治体が改修費用や家賃の一部を補助して住まい確保につなげる。

- ③魅力

- ◎プロ監修の自転車地図

自転車愛好家の誘客を目指し元自転車プロ選手監修のサイクリングマップを作製、市を発着点におもに人気の高い西浦、形原、蒲郡、三谷、大塚海岸の5コースを紹介する。マップは雨や汗で破れない様防水加工され折りたためるとサイクルウェアやポケットに収納出来る。元プロ選手の三船雅彦氏は「多様な魅力を自転車で走りながら四季の景色を満喫して頂ける」又コースを通る自治体と連携しさらなる観光客誘致につなげて頂きたいと思います。

- ④安全性

- ◎「ゾーン30」で安全確保

生活道路での歩行者の安全確保の目的に区域を最高速度 30 キロに規制する「ゾーン30」。自動車と歩行者や自転車の事故も減少出来る。病院、児童館、遊園など高齢者や子供が利用する施設・区域を主な対象です。最高速度 30 キロ規制に加え場所に応じて路面表示やわざと路面を盛り上げて段差を設ける「ハンプ」「ポール」を立てて道幅を狭くする「狭窄」を措置して頂き市民を守ることが先決と思います。

事実関係についてのご質問への回答

ご質問	回答																												
<ul style="list-style-type: none"> 学校立地の検討を、通学路の面で具体的に分析を行いたいため、子どもの居住分布を知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 総代区別で小学生、未就学児の児童数をまとめました。下表をご覧ください。 <p>総代区別児童数 単位：人</p> <table border="1" data-bbox="810 725 1347 1272"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学生</th> <th>未就学児</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稲生</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>馬場</td> <td>62</td> <td>42</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>知柄</td> <td>45</td> <td>36</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>橋田</td> <td>30</td> <td>35</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>龍田</td> <td>87</td> <td>63</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>246</td> <td>198</td> <td>444</td> </tr> </tbody> </table> <p>(平成 30 年 1 月 11 日現在)</p>		小学生	未就学児	計	稲生	22	22	44	馬場	62	42	104	知柄	45	36	81	橋田	30	35	65	龍田	87	63	150	計	246	198	444
	小学生	未就学児	計																										
稲生	22	22	44																										
馬場	62	42	104																										
知柄	45	36	81																										
橋田	30	35	65																										
龍田	87	63	150																										
計	246	198	444																										
<ul style="list-style-type: none"> 児童館の利用実態を知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 0 歳から 18 歳を対象とした施設であり、児童館の利用者数等については、第 1 回ワークショップでお配りした「資料集」の p.19 に掲載しています。 主な利用のされ方については、午前中は未就学児や乳幼児の利用（保護者同伴）が多く、「親子で遊ぼう」（毎週水曜日）等のイベントを実施しています。午後は、放課後の小中学生の利用が多くなっています。また、児童クラブ事業の実施施設となっています。 																												

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

ご質問	回答
<ul style="list-style-type: none">• 今回西浦地区と塩津地区でワークショップがスタートしたということは、一番最初に再配置に着手するということか確認したい。	<ul style="list-style-type: none">• 地区利用型施設の平均築年数が進んでいる西浦地区と、平均老朽化度が高い塩津地区から、ワークショップを進めていますが、施設再配置の着手の順序を決めるものではありません。• 施設の老朽化状況、工事期間中の運営面での支障、財政状況等を総合的に勘案し、着手の順序を決めていきます。

評価の視点についてのご意見への回答

ご質問	回答
<ul style="list-style-type: none"> 若者の利活用のしやすさを評価の項目に加えてほしい。(視点②人口減少・少子高齢化社会への対応) 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の項目として検討しましたが、公共施設の再配置によつての「若者の利活用のしやすさ」の変化が想定されないため、評価の項目には加えておりません。 (仮に評価を行う場合は、各案とも現状維持の評価となります。) 各案の配置を前提とした付帯事項(施設の再配置を実施後に配慮しなければならない事項)として、ご意見をいただければと考えております。
<ul style="list-style-type: none"> 多様な人が集まることによる防犯上のリスクを評価の項目に加えてほしい。(視点⑦運営の改善) 	<ul style="list-style-type: none"> 運営の改善に関する内容につきましては、付帯事項(施設の再配置を実施後に配慮しなければならない事項)として整理するため、プランの比較・絞り込みを行った後に検討していただきます。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の雇用促進や来町者増加などの経済的な効果も評価の視点に加えてほしい。(視点の追加) 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の視点として検討しましたが、公共施設の再配置による変化が想定されないため、評価の視点には加えておりません。 (仮に評価を行う場合は、各案とも現状維持の評価となります。) 各案の配置を前提とした付帯事項(施設の再配置を実施後に配慮しなければならない事項)として、ご意見をいただければと考えております。

1 再配置プラン案を比較評価するための評価軸

視 点	内 容	評価項目
①地区の活性化 (まちづくり)	<ul style="list-style-type: none"> 様々な世代が利用でき、イベントにも活用できる地域の活動拠点・交流拠点が整備されているか。 	ア 地区全体を盛り上げるイベントや学校を活用した活動を実施しやすくなったか。(公民館と学校の関係性で評価) イ 一体感のある地域の拠点はできているか。(公民館と他施設との関係で評価) ウ 祭りや神社の行事に若者が参加しやすくなったか。 エ 西浦の地域性が保たれるか。
②人口減少・少子高齢 化社会への対応	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のコミュニティの場は確保されているか。 様々な世代、地域の方が交流できる場は確保されているか。 子ども同士の交流や、地域で子どもを見守る環境など子育てしやすい環境が整備されているか。 	オ 高齢者の生きがいづくりや活躍の機会は増えているか。(公民館と小学校の関係性で評価) カ 地区住民同士や異なる世代間の交流機会は生まれやすくなったか。(施設同士の関係性で評価) キ 親にとって送迎の利便性が向上しているか。(児童クラブ機能と保育園の位置関係で評価) ク 地域で子どもを日常的に見守る環境が整ったか。(公民館と小学校・保育園の関係性で評価) ケ 子ども同士の交流機会が増えたか。(学校・保育園・児童館の関係性で評価)
③ 教育環境の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって使いやすい児童クラブが整備されているか。 教育環境の向上が期待される複合化、施設配置となっているか。(選択や競争、多くの人と接する機会があるか。) 	コ 小学生にとって児童クラブが利用しやすくなったか。(児童クラブ機能と小学校の位置関係で評価) サ 中学生にとって部活動の選択肢が増えたか。 シ 小中学生が切磋琢磨したり互いに見習う機会が増えたか。(学校規模で評価) ス 小学校と中学校が連携しやすいか。(小学校と中学校の関係性で評価) セ 学校での異年齢との交流機会が増えたか。 ソ 学校と地区住民との交流機会が増えたか。(学校と公民館の関係性で評価) タ 運動会など学校行事が盛り上がりやすいか。 チ 中学生が学習に集中しやすくなったか。 ツ 学校のグラウンドや体育館を児童生徒が授業や課外活動で円滑に利用できるか。
④災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の数・機能・位置は適切か。 災害時に安全に子どもを引き取ることができるか。 	テ 避難所収容人数は充足しているか。 ト 津波時の避難所は確保されているか。 ナ 災害時に親が子どもを安全に引き取りやすくなったか。(小学校・中学校・保育園の位置関係で評価)
⑤アクセス性への配 慮	<ul style="list-style-type: none"> 各所から通いやすい施設配置となっているか。特に車を持たない方や児童生徒の通学に配慮されているか。 駐車スペースは十分確保されているか。 	ニ 小学生が徒歩で通学しやすくなったか。(小学校の周辺人口と地形的な立地で評価) ヌ 中学生の通学距離は短くなったか。(中学校の立地で評価) ネ 通学の安全性が高まったか。(学校周辺の環境で評価) ノ 保育園に駐車場は十分に確保されるか。 ハ 公民館は高齢者が徒歩で利用しやすくなったか。(公民館の周辺人口と地形的な立地で評価) ヒ 公民館に駐車場は十分に確保されるか。
⑥将来負担(コスト) の縮減	<ul style="list-style-type: none"> 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。 跡地は有効に活用されているか。 	一定期間の施設にかかる総コストが低いものを評価する。 ・面積が小さいなど、建設費・改修費・修繕費が安価な場合は総コストが低くなる。 ・土地の売却や借地の返還が発生する場合は、総コストが低くなる。 ・面積が小さいなど、建物の維持管理費(光熱費・保守点検費)が安価な場合は総コストが低くなる。

- 視点①～⑤については、評価項目ごとに ◎：現状より向上、○：現状維持もしくは一長一短がある、△：現状より低下 の3段階で採点します。
- 視点⑥については、LCC（ライフサイクルコスト）の試算における50年間の縮減額にもとづき評価します。（試算の結果及び条件等は別冊資料「項目ごとの評価の解説」p.15～19のとおり。）

視 点	評価項目	A案	B案	C案	D案
①地区の活性化（まちづくり）	ア 地区全体を盛り上げるイベントや学校を活用した活動を実施しやすくなったか。（公民館と学校の関係性で評価）	◎	○	◎	◎
	イ 一体感のある地域の拠点はできているか。（公民館と他施設との関係で評価）	◎	○	◎	○
	ウ 祭りや神社の行事に若者が参加しやすくなったか。	○	○	△	○
	エ 西浦の地域性が保たれているか。	○	○	△	○
②人口減少・少子高齢化社会への対応	オ 高齢者の生きがいづくりや活躍の機会は増えているか。（公民館と小学校の関係性で評価）	◎	○	◎	○
	カ 地区住民同士や異なる世代間の交流機会は生まれやすくなったか。（施設同士の関係性で評価）	◎	◎	◎	◎
	キ 親にとって送迎の利便性が向上しているか。（児童クラブ機能と保育園の位置関係で評価）	◎	○	◎	◎
	ク 地域で子どもを日常的に見守る環境が整ったか。（公民館と小学校・保育園の関係性で評価）	◎	◎	◎	○
	ケ 子ども同士の交流機会が増えたか。（学校・保育園・児童館の関係性で評価）	◎	◎	◎	◎
③教育環境の適正化	コ 小学生にとって児童クラブが利用しやすくなったか。（児童クラブ機能と小学校の位置関係で評価）	◎	◎	◎	◎
	サ 中学生にとって部活動の選択肢が増えたか。	○	○	◎	○
	シ 小中学生が切磋琢磨したり互いに見習う機会が増えたか。（学校規模で評価）	◎	◎	◎	○
	ス 小学校と中学校が連携しやすいか。（小学校と中学校の関係性で評価）	◎	◎	○	○
	セ 学校での異年齢との交流機会が増えたか。	◎	◎	○	○
	ソ 学校と地区住民との交流機会が増えたか。（学校と公民館の関係性で評価）	◎	○	◎	◎
	タ 運動会など学校行事が盛り上がりやすいか。	◎	◎	○	○
	チ 中学生が学習に集中しやすくなったか。	△	○	○	○
	ツ 学校のグラウンドや体育館を児童生徒が授業や課外活動で円滑に利用できるか。	△	○	○	○
④災害時の対応	テ 避難所収容人数は充足しているか。	○	○	○	○
	ト 津波時の避難所は確保されているか。	○	○	○	○
	ナ 災害時に親が子どもを安全に引き取りやすくなったか。（小学校・中学校・保育園の位置関係で評価）	◎	◎	○	◎
⑤アクセス性への配慮	ニ 小学生が徒歩で通学しやすくなったか。（小学校の周辺人口と地形的な立地で評価）	○	△	○	○
	ヌ 中学生の通学距離は短くなったか。（中学校の立地で評価）	○	○	△	○
	ネ 通学の安全性が高まったか。（学校周辺の環境で評価）	◎	△	△	○
	ノ 保育園に駐車場は十分に確保されるか。	△	◎	○	○
	ハ 公民館は高齢者が徒歩で利用しやすくなったか。（公民館の周辺人口と地形的な立地で評価）	○	○	○	△
	ヒ 公民館に駐車場は十分に確保されるか。	△	◎	○	○
⑥将来負担（コスト）の縮減	LCC（ライフサイクルコスト）試算における50年間の縮減額（単位：百万円）	4,179	3,560	7,660	2,877

- 視点①～⑤については、各評価項目の ◎=2点、○=1点、△=0点として足し合わせ、75点に得点割合を乗じた値を下表のⅠにまとめました。
- 視点⑥については、50年間のLCC（ライフサイクルコスト）の縮減額の最も高い案を25点とし、その他の案は縮減額に比例して減点した値を下表のⅡにまとめました。
- ⅠとⅡを足し合わせ100点満点で合計を計算しました。

Ⅰ 地区の魅力や安全に関する項目（視点①～⑤）についての評価（75点満点）

A案	B案	C案	D案
52.78	50.00	47.22	45.83

Ⅱ 将来負担に関する項目（視点⑥）についての評価（25点満点）

A案	B案	C案	D案
13.64	11.62	25.00	9.39

縮減額 (4,179百万円) (3,560百万円) (7,660百万円) (2,877百万円)

合計（Ⅰ＋Ⅱ）（100点満点）

A案	B案	C案	D案
66.42	61.62	72.22	55.22

A

施設を集中させて地域の拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】1 2 9 10

- 西浦小学校に、西浦中学校、西浦保育園、にしうら児童館、西浦公民館を複合化し、教育・地域活動の拠点を形成します。

B

多世代の交流拠点と教育の拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】2 8

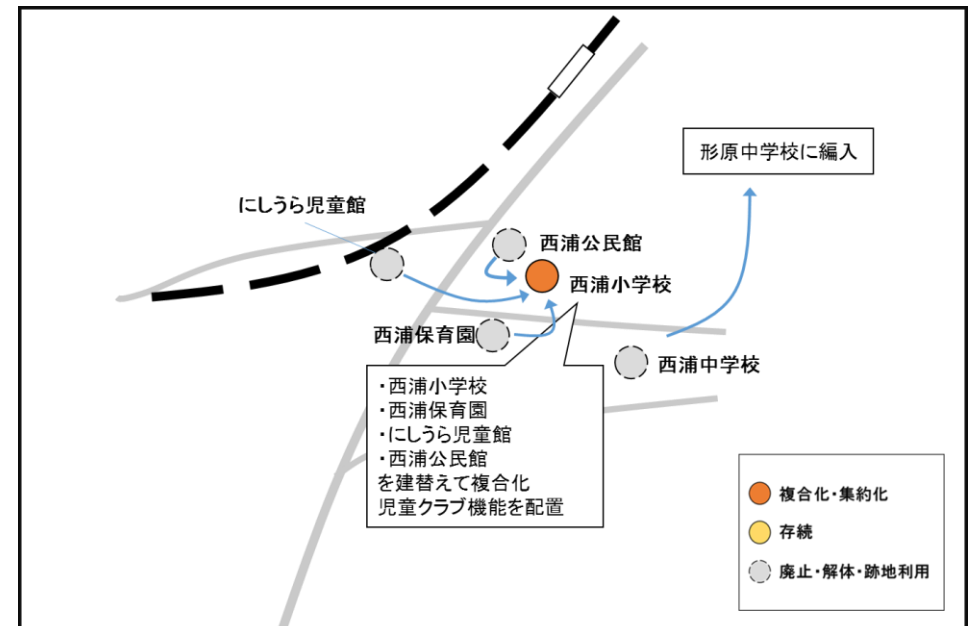
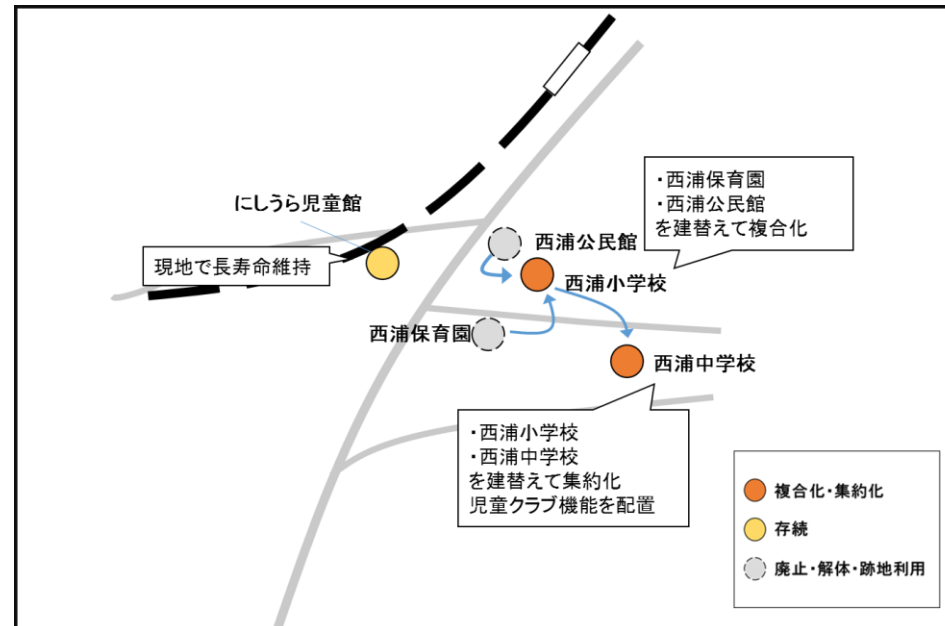
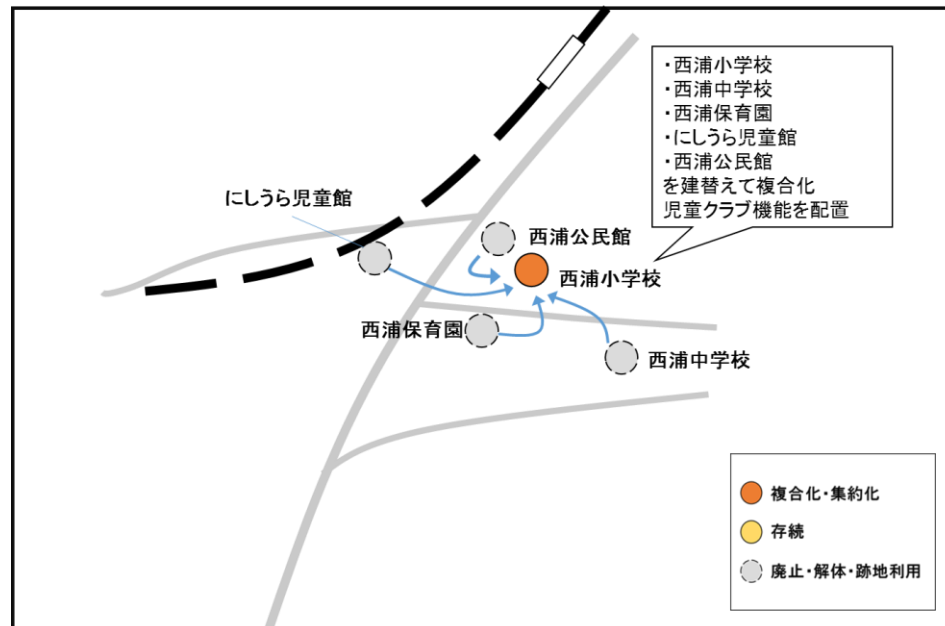
- 西浦小学校の敷地に、西浦保育園、西浦公民館を複合化し多世代の交流拠点を形成します。
- 西浦中学校に西浦小学校を集約化し、教育の拠点を形成します。

C

西浦中学校を形原中学校に編入するプラン

【重点を置いた解決策】1 5

- 西浦中学校を形原中学校に編入します。
- 西浦小学校の敷地に西浦小学校、西浦保育園、にしうら児童館、西浦公民館の複合施設を配置し、教育・地域活動の拠点を形成します。



特徴

- 地域の中心となる拠点ができることによって、地域の行事や活動を一体的にできたり、多様な方々の交流が活性化する。
- 保育園から中学校が1ヶ所にあることで合同での行事実施や異なる年齢間での交流が期待できる。

【関連する解決策】1 2 3 4 7 8 9 10 11

特徴

- 小学校敷地に保育園と公民館を複合させることで、地域で子どもを見守る環境づくりが期待できる。
- 小中学校の集約化により教育環境の充実が期待される。
- アクセス性のよい小学校敷地と高台にある中学校敷地の両方に避難所機能を設置することができる。

【関連する解決策】2 3 4 6 7 8 9 10

特徴

- 地域の中心となる拠点ができることによって、地域の行事や活動を一体的にできたり、多様な方々の交流が活性化する。
- 保育園から小学校までの一貫した子育て環境をつくりやすい。
- 中学校が他地区と統合されることで、中学生の選択や競争の機会を増やすことができる。

【関連する解決策】1 2 3 4 5 7 9 10 11

課題

- 児童館の建物は比較的新しく、複合化後の活用方法について検討が必要である。
- 小学校の敷地面積では、必要な機能を十分に確保することは難しい可能性がある。

課題

- 小学校が高台の中学校敷地に移転することで、児童にとって通学時の負担が大きくなる。

課題

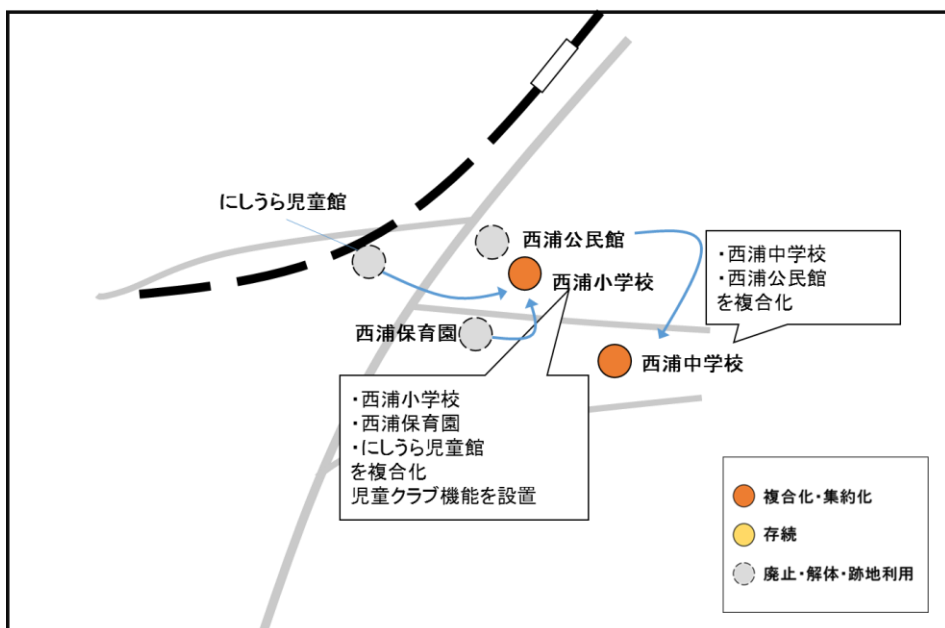
- 中学校の統合に伴い、安全に通学できるようアクセス性に配慮する必要がある。
- 児童館の建物は比較的新しく、複合化後の活用方法について検討が必要である。

D

学校を中心とした 2つの拠点をつくるプラン

【ワークショップの中で発案されたプラン】

- 西浦中学校に西浦公民館を複合化し、多世代の交流拠点を形成します。
- 西浦小学校に、西浦保育園とにしうら児童館を複合化し、子育ての拠点を形成します。



特徴

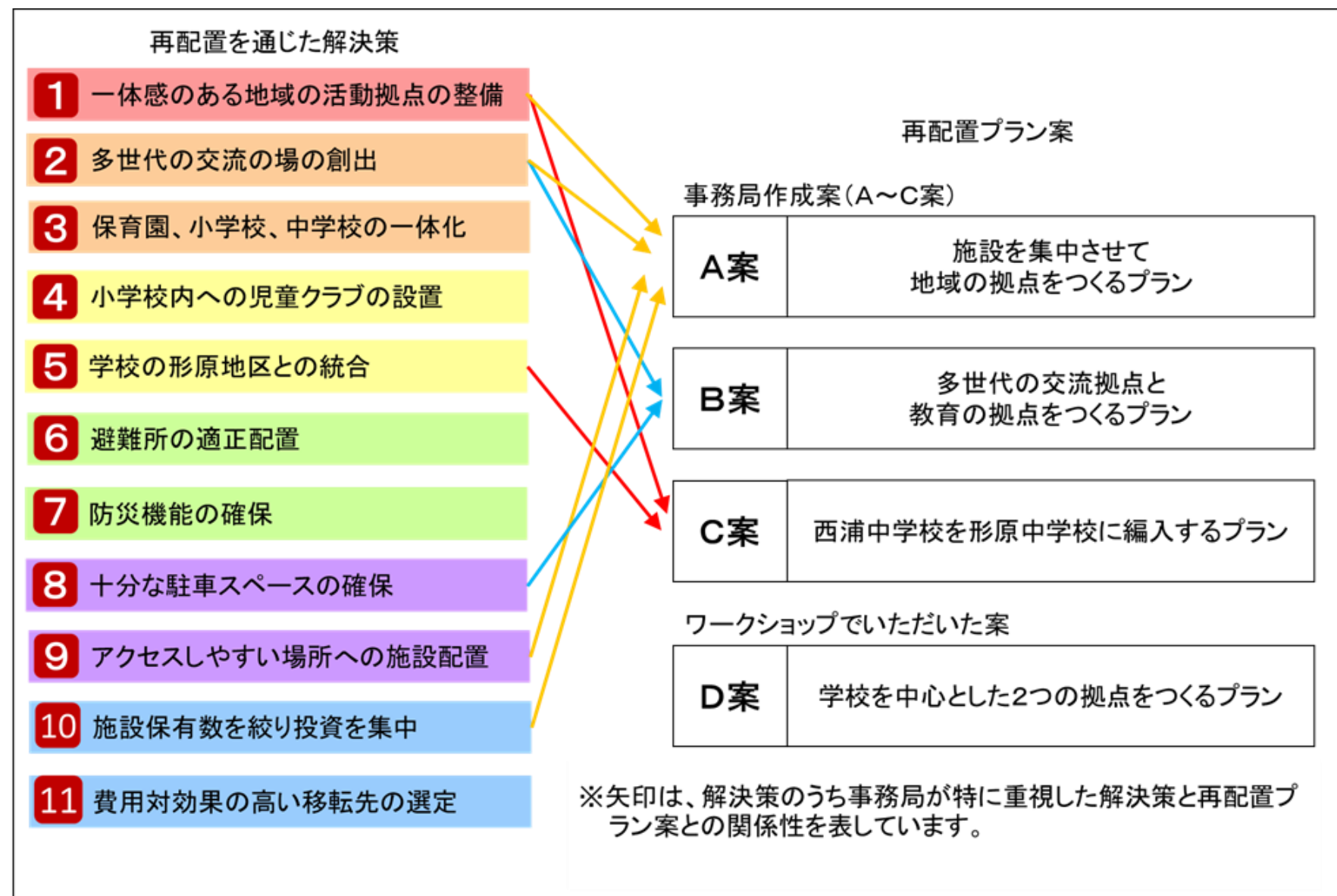
- 中学校と公民館を複合化することで高齢者や公民館利用者と中学生の交流が期待できる。
- 小学校に保育園・児童館が複合化されることで子育て機能の連携が期待できる。
- アクセス性のよい小学校敷地と高台にある中学校敷地の両方に避難所機能を設置することができる。

【関連する解決策】 **23467**

課題

- 児童生徒数の少ない小中学校をそれぞれ維持していくことになり、コスト負担が大きい。
- 高齢者の利用が多い公民館が高台の中学校敷地に移転することで、利用時の負担が大きくなる。

再配置プランの考え方



図：再配置を通じた解決策と再配置プラン案の関係性

本日の検討内容

前回までに検討された4つの再配置プラン案をご意見にもとづく「評価の視点」を踏まえて評価しました。

評価の内容について修正点や配慮すべき点などがありますか。